

城陽高校図書館だより

ふみくら

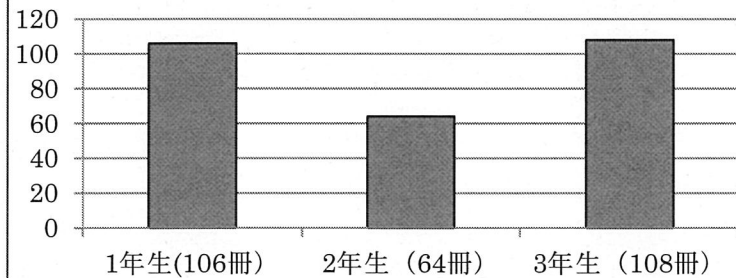
2017-No. 5

平成29年9月20日
京都府立城陽高等学校
図書館発行



7/8月の図書館 開館日数 24日 入館者数 496人(20人/日)

貸出冊数 (278冊)



*昨年度に比べて入館者は2割、貸出し冊数は1割くらい増えています。(昨年ほどの学年も貸出冊数が100冊以下でした。)国語科の「私の1冊」で紹介された本もよく借りられました。また、今夏も3年生の入試のための資料を府立図書館からお借りしました。(本校に適切なものがないときは他館から借りて提供することもあります。)大学・専門学校入試、就職試験も本番です。面接・論文・課題本などで困ったら図書館に来てください。一緒に考えて求める資料を探します。そして、本を返却に来たときに返却期限を過ぎて、「遅れてすみません。」と言ってくれる人が本当に多くなりました。図書館マナーが身についていますね！貸出1位さんの累計貸出冊数が1,161冊になりました！！*****



いかがですか？「あるかしら書店」ヨシタケシンスケ

読みたい本が見つからない、何かおもしろい本ないかな？ そんなときは、本が大好きなこの店のおじさんに「〇〇の本ありますか？」って聞いてみてください。「ありますよ！」店の奥から「月光本」「二人で読む本」「バタ足入門の本」…奇妙な本が次々と出てきます。でも、この書店にもない本があるんです。それは…さあ書店をのぞいてみましょう！

文化祭の動画は図書館で見よう！

図書館で各発表のDVDを作成しています。クラス・部活動・有志発表など、見逃したものの、もう一度見たいものを昼休み・放課後に見にきてください。視聴コーナーで見られますので、カウンターに声をかけてください。

—よくある質問—

- Q「文化祭のクラス発表や部活動発表をDVDに焼いてもらえますか？」
A「使われている音楽・キャラクターなどの著作権処理、写っている人の肖像権の許諾を得なければならないので、できません。」

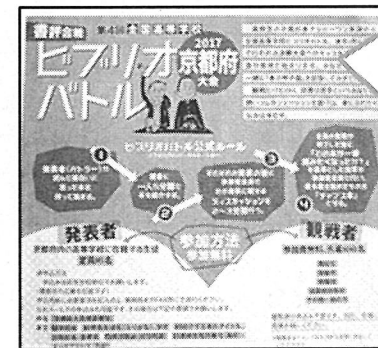


9月24日(日) 13:00~ @龍谷大学深草キャンパス

2017全国高等学校ビブリオバトル

京都府大会に2名出場します！

本校2年7組 小倉達矢さんと3年5組 山路愛歌さんが上記大会に出場します。この大会は2014年度から開催されている「全国高等学校ビブリオバトル」の京都府予選会で、優勝すると、来年1月東京で開催される決勝大会に招待されます。京都府大会は今回が初めての開催で、現在のところ、本校を含む府内の高校生16名程度のバトルになるようです。校内読書週間のビブリオバトルの常連の二人にがんばってもらえるよう、当日観覧して投票に参加しましょう！！



参加希望者は

9月21日(木)

放課後までに

図書館に来てください。



内本の図書館に行こう ～その4～



「内本の図書館に行こう」は、今回で第4回目です。生徒の皆さんは、夏休みも終わり、一番盛り上がった、また、楽しみにしていた文化祭も終わりました。私は昨年度に引き続いて今年も3年生の演劇の審査をさせていただきました。今まで文化祭時は、PTA 模擬店の手伝いをしていましたので、3年生全クラスの熱のこもった演劇を見させていただくようになってすごい感動をもらっています。授業の時よりも輝くあの真剣な表情、勉強のことは覚えにくいのに、演劇のことになるとあんな長い台詞でも覚えられてしまう、すごいですね。

さて、来月には体育祭もあり、季節は「〇〇の秋」・「〇〇の秋」となっています。本来は、「読書の秋」ということを書くべきなのですが、今回は、「食欲の秋」について書いてみたいと思います。それは、7、8年前のことです。

*Y先生 「内本先生、ちょっと聞いたんですが、食べ物では麺類がたいへん好きだそうですね。」

*私 「そうなんです。麺類には目がなくてねえ。」

*Y先生 「じゃー今度本場の物を食べに行きませんか。」

*私 「いいですね。ぜひ行きましょう。」(私はその時、どこかの行列のできるラーメンでも食べに行くのかなあと考えていました。)

2、3日してから

*Y先生 「内本先生、麺類ツアーの予定ができましたので、こんな感じでどうですか？」

*私 「Y先生、お昼にラーメン食べに行くんやろ。」

*Y先生 「違いますよ、うどん巡礼ツアーに行くんですよ。」

*私 「えー！うどんの本場ってたしか香川県やろ。香川まで日帰りで行けるんか？」

*Y先生 「この予定表を見てください。夜中に京都を出発して、次の日の朝高松に到着、午前中に3軒、それから温泉に入って、午後2軒。ホテルにチェックインして、うどん以外の物を軽く食べて、締めカレーうどんを2軒。これで一日目は終了です。」

*私 「一日目って次の日もうどんかいな。」

*Y先生 「もちろん、うどん巡礼の旅ですから。」

ここでキーワード 「本場の物」

「内本の図書館に行こう」は、ずっと「何事も実際にそこに行って、自分の目で確かめてみないと分からないことはたくさんある」、その手助けをしてくれるのが図書館の本だと言いつけてきました。食べ物だって実際にそこに行って食べてみないと分からない。



図書館には、この本（るるぶ）の日本全国版のシリーズがあります。旅行に行くことが決まった時、本場の物を確かめようと思ったとき、図書館の本で下調べをしてみたらどうでしょうか。何かの参考になるとと思います。図書館をおおいに利用してください。



A さんのおすすめ本



『蜜蜂と遠雷』 恩田 陸 著 (幻冬舎)

読み終えて、久しぶりにクラシック音楽が聴いてみたいと思った。モーツァルトやベートーベン、バッハなどの名だたる音楽家はもちろん、たぶん聴いたことがないプロコフィエフやラフマニノフの曲を聞いてみたいと思いました。

高校生の諸君の大部分は、現代のポップミュージックはお手のものでも、クラシック音楽となるとあまり縁がないという人が多いのでは？ 聴いてもモーツァルトなどの有名な曲くらいかな？ もちろんベートーベンの第九「歓喜の歌」(喜びの歌)は知っているでしょう。

さて、この本は、ピアノコンクールを舞台にした小説なので、“文字を通じて音楽を聴く”という感じです。さすが、著者の恩田陸さんは、表現が豊かですね。“文字で音を表現する”というかその雰囲気が、そのコンサート会場にいるみたいに伝わってきます。

「サン・サーンスの感じているエキゾチシズム。アフリカの——そして、人類が根源的に懐かしく感じ、身体の底に沈んでいるものを喚起させられるリズム。リズムとは快感だ。」「第四楽章で、彼女は内省する。これまでの自分を俯瞰する、深い深い内省だ。かつて見えなかったものが見えてくる。聞いていなかったものが聞こえる。自分の小ささ、愚かさ、幼さを痛感する。」

ハードカバーなのですが、本のページ数は多く、一見“分厚い！！”とひるんでしまう人もいるかもしれませんが、これが面白く、どんどん読んでいけます。

第156回直木賞受賞(2017年度前期)。同時に2017年本屋大賞受賞作品です。

(司書教諭 足立孝二)